



お子さんと一緒にご覧ください



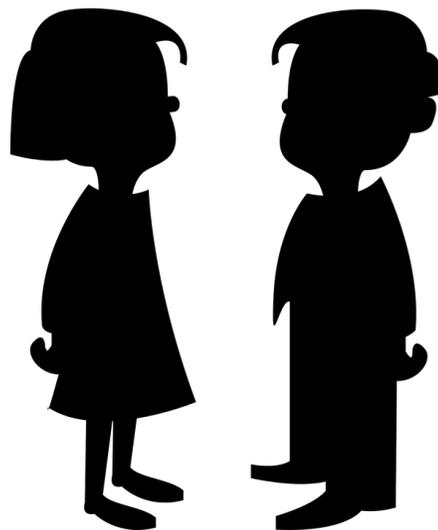
カラフル

ちが
みんな違っていいんだよ

子どもも人生も色とりどり・・・

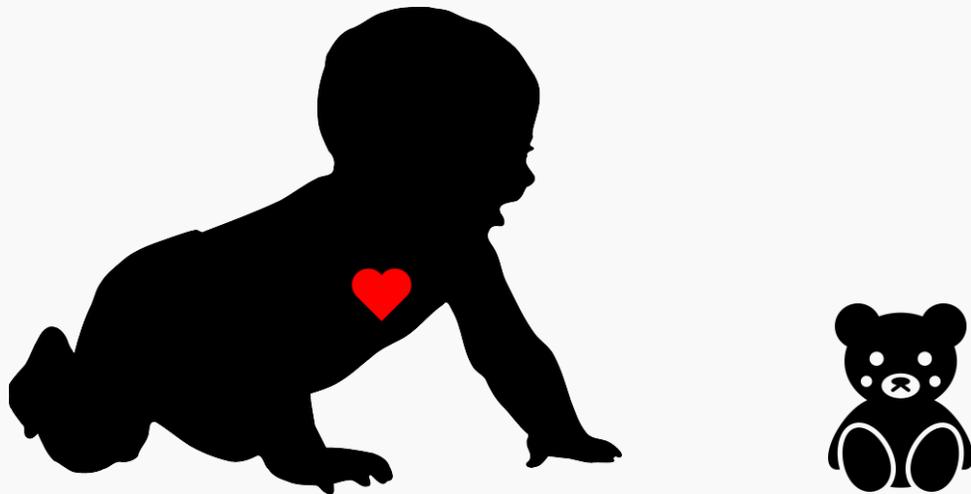
誰もが好きな生き方を選べる社会に・・・

大人が変わると、
子どもたちの未来が変わります



おとこのこ？

おんなのこ？



たいせつなひとつの「いのち♥」のはずけど、
「おとこのこ」と「おんなのこ」、なにがちがうんだろう・・・

ジェンダーとは？

性別の考え方には
セックスとジェンダーの2つがあります。

■セックス（生物学的な性別）

生まれた時に判断される性別のことです。
完全に二分できるわけではありませんが、
男性（オス）と女性（メス）に大別されます。

■ジェンダー（社会的・文化的な性別）

先天的に決まっているものではなく、社会や文化
の影響を受けて築かれた「男性像」「女性像」
のことです。

すきなおもちゃは？



どんなあそびがすき？
おとこのこが、おままごとを「すき♥」だったり、
おんなのこが、でんしゃやこんちゅうを「すき♥」だったり、
いろんな「すき♥」をたいせつにしようね。

ジェンダーバイアス

自分の思う「男らしさ」や「女らしさ」にあてはまらないことに、違和感を持つことがあります。
これを**ジェンダーバイアス**といいます。

ジェンダーバイアスは、育ってきた環境、**家庭や学校**などでの経験から**刷り込まれ**ているため、**無意識**にこのような考え方をしてしまうのです。

例えば、**男の子にはこれ**、**女の子にはこれ**と、決めつけていませんか。
その子の「すき♥」を大切にしてですか。

ほんとうに、 すきないろは？



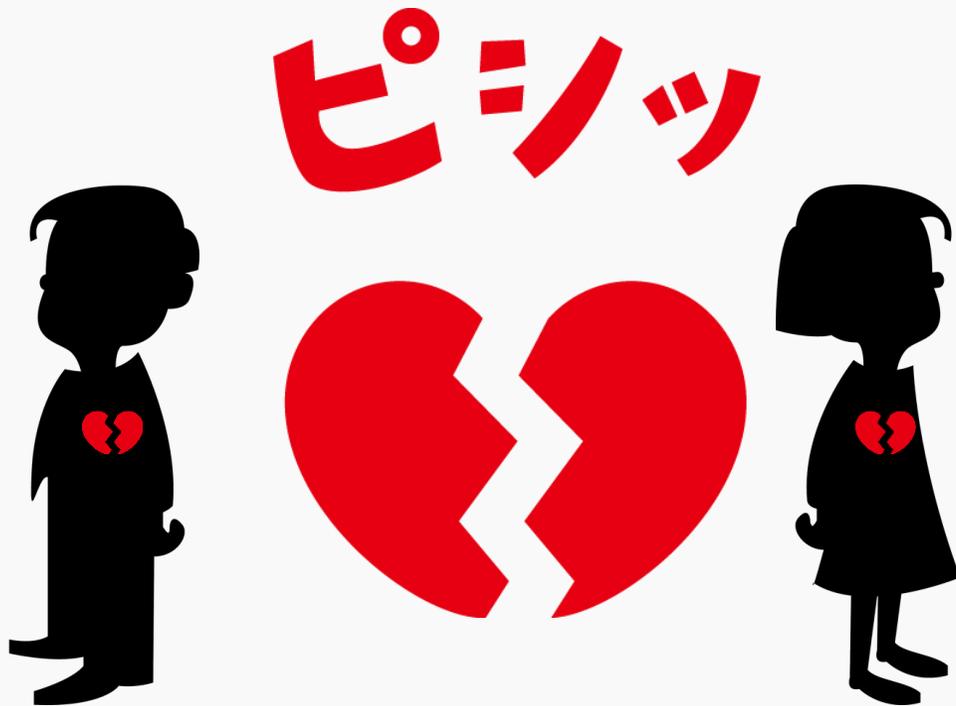
たくさんの「いろ」があるね。
おとこのこが、ぴんくを「すき♥」でも、
おんなのこが、あおを「すき♥」でも、いいんだよ。
みんな、おかおがちがうのといっしょ。
おともだちやきょうだいと「すき♥」がちがっても、
みんな、ちがっていい。ちがっているのが、あたりまえ。

「女の子は、ピンクね」、
「男の子がピンクなんておかしい」
というような考えが心にあったり、
また周囲の人からそういわれたりすると・・・

そのジェンダーバイアスが、
価値観となって言動に表れ、自分や周囲の人、
子どもたちの行動を制限してしまう可能性があります。

子どもたちにとって大切な存在から、
自分を認めてもらえない言葉を伝えられたら、
とっても悲しくて辛いことでしょう。

おとこのこは、なくな！
おんなのこなのに、なまいきだ！



おとこのこだって、おんなのこだって、
それに、おとなだって、なきたいときはあるはずなのに、
どうしてないちゃいけないのかな？
おにいちゃん、おねえちゃんだって、がまんばかりだと、
ひとつしかないたいせつな「こころ♥」がこわれちゃう💔。

「男なんだからめめめするな」
「女の子なのに気が強い」
使っていませんか？こんな言葉。

男性も泣きたい時があり、
女性も自分の意見を伝えたい時があります。

思い込みによる価値観にしばられず、
男らしく、女らしくより、
自分らしくがいいですね。

個人を尊重し、個性として認め合うことを、
まずは大人から始めてみませんか。

おおきくなったら、 なりたいゆめは？



おんなのこだって、おとこのこだって、
みんな、いろんな「ゆめ♥」を、いっぱいもってほしいなあ。

固定的性別役割分担意識

男性は仕事、女性は家事・育児というような考え方を「**固定的性別役割分担意識**」といいます。

この意識がまだまだ根強い日本では、本人の意思に関係なく、女性に家事の負担がかかり、男性はあらゆる場面でリーダー的な役割を求められがちです。

誰もが、**性別による色眼鏡**をはずして、そして自分自身もその殻を破ることができたら、子どもたちだけでなく、大人たちも、**もっと自分らしく**生きられると思いませんか？



おとなだって
こどもだって

おんなのこだって、おとこのこだって、おともだちとだって、

みんな、カラフル、
みんな、^{ちが}違ってていいんだよ。

「すき♥」のきもちは
たいせつなたからもの。

おとなになっても・・・、
ほかの人の「すき♥」も・・・、
ずっと、ずっと、
たいせつにしていこうね。